

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006 年 1 月 31 日

I 概要

実践団体・担当者名	特定非営利活動法人 まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会 (担当者： 東川隆太郎)	
連絡先	099-227-5343	
プランタイトル	地質から学ぶ甲突川の防災マップ作製と見て歩きワークショップ開催事業	
目的	鹿児島市には、シラスに覆われ大雨等の際に崩落が懸念されたり、河川敷で浸水等の被害が予想されたりする場所が多くある。本プランではそれらの地形を理解する現地でのワークショップを通じて、防災に対する知識と備えが必要なことを多くの人に伝えることを目的とする。	
プランの概略	鹿児島市の中心を流れる甲突川沿いの地形を知るワークショップを開催し、ワークショップで見て、知った情報を「防災マップ」としてまとめる。 更にまとめたマップの情報を広く市民に周知することで、防災への意識の向上を図る。	
プランの対象と参加人数	小学生低学年とその保護者	
実施日時	2005年6月25日	
主な実施場所	鹿児島市 甲突川流域	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有
	連携した団体名	①財団法人 鹿児島県青年会館艸舎 ②鹿児島大学総合研究博物館
	連携したきっかけ・理由	①他の委員会で知り合い、ワークショップ実施予定地に近かったため、場所の提供と、広報をお願いした。 ②以前から同内容の取り組みをしたいという話があったため。
	連携団体へのアプローチ方法	①②面識があったため、特になし。
	連携団体との打合せ回数	①ワークショップ会場に関して1時間×1回 ②ワークショップ事前打ち合わせ 2時間×1回 マップ作成にかかるアドバイス 2時間×2回
	連携団体との役割分担	①地域の方への広報とワークショップ実施場所の提供を受けた。 ②ワークショップ内容の企画について相談し、マップ作成の際にも助言をいただいた。

II プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2 名
	外部スタッフの総人数	1 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 東川隆太郎 (NPO 法人まちづくり地域フォーラム・ かごしま探検の会 専務理事) 企 画 東川隆太郎 大木 公彦 (鹿児島大学総合研究博物館 館長) 渉 外 東川隆太郎 (NPO 法人キャリア・ワールドスタッフ) 制 作 寺園 美和 (NPO 法人 まちづくり地域フォーラム・ かごしま探検の会 事務局長) 広 報 寺園 美和
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2004 年 12 月
	立案時間	3 時間× 3 回
	上記のうち打合せ回数	1 回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・いままで「防災」や「地質」に関心がない人でも気軽にワークショップに参加できる内容にしたい。 ・成果を広く市民と共有できるものにしたい。 	
プラン立案で 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の年齢層 	

III 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2 名
	外部スタッフの総人数	3 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 東川隆太郎 (NPO 法人まちづくり地域フォーラム・ かごしま探検の会 専務理事) 企 画 東川隆太郎 大木公彦 (鹿児島大学総合研究博物館 館長) 会場準備 池水聖子/西 (鹿児島県青年会館) 渉 外 東川隆太郎資料制作 寺園 美和 (NPO 法人まちづくり地域フォーラム・ かごしま探検の会 事務局長) 広 報 寺園 美和 東川 隆太郎 事 務 寺園 美和
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005 年 5 月 1 日～ 2005 年 6 月 1 日
	準備総時間	下見・打ち合わせ広報、資料作成： 3 時間× 10 回
	上記の内打合せ回数	3 回

教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	玉江小学校 原良小学校
	どのように働きかけたか	鹿児島県青年会館を通じての広報。 FAX等。
	結果	興味のある教諭のクラスからの参加はあったが、全体的に反応は鈍かった。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	財団法人 鹿児島県青年会館艸舎。 また、会館を通じて地域の人々に広報してもらった。
	どのように働きかけたか	直接訪問による広報
	結果	全面的な協力を得られた。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	なし
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○まち歩きワークショップ ・防災ジャケット・紙バサミ・対象地域の地図 ・使い捨てカメラ ○マップづくりワークショップ ・広用紙、ペン等
	入手先・入手方法	第2回「小学生の“ぼうさい探検隊”マップコンクール」 に応募することで、キットや防災ジャケットの貸与を受けた。
	機材・教材選定の理由(な ぜこの機材・教材を選ん だのか)	マップづくりには最適と考えたから。 また、街中を歩くワークショップのため、ジャケットがあると 安全性が向上すると考えたため。
参加者の募集	募集方法	・新聞のイベント告知欄による広報 ・当会の会員への呼びかけ(チラシの郵送)
	募集期間	2005年5月1日～6月24日
	参加予想人数	30名
	実際の参加人数	23名
	募集方法の成功点	対象地域の教諭の協力を間接的ではあるが得られたこと。
	募集方法の失敗点	・思うように人数が集まらなかった。 ・のちに、小学校教諭に、集合場所を小学校にしてもらえると 集まりやすいのだがという助言を受けた。
準備で苦労した 点・工夫した点	・ワークショップ実施場所の選定。 ・天候の安定しない時期の実施となったため、1度目のワーク ショップが中止となったこと。	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月	*12/5 立案 *12/11 鹿児島大学 総合研究博物館と打ち合 わせ *12/25 申請書作成		
2005 1月			
2月			
3月			
4月			
5月		*5/4 フィールド下見1回目 *5/9 フィールド下見2回目 *5/13 フィールド下見3回目 *5/17 会場下見・打ち合わせ 広報資料作成、広報開始	
6月		*【随時】広報活動/解説内容確認 *6/1 フィールド下見4回目 *6/2 フィールド下見5目 *6/6 マスコミまわり *6/9 マスコミまわり *6/10 下見・打ち合わせ 資料作成 *6/24 下見・打ち合わせ 資料作成	*6/25 ワークショップ実施
7月		*7/5 補充調査1回目 *7/14 補充調査2回目 *7/18 マップ作成打ち合わせ1回目	
8月		*8/11 補充調査3回目	
9月		*9/30 補充調査4回目	
10月		*10/23 マップ作成打ち合わせ2回目	
11月		*11/8 マスコミまわり	*11/8 マップ完成
12月			*市民に向けた広報活動【随時】
2006 1月		*報告書作成	

V実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	防災マップづくり			
実施日	6月25日			
所要時間	5分	25分	5分	10分
達成目標	防災マップの趣旨を理解する。	川や地形の観察、地名などから、災害が起こった際のことを想定する。	見てきたものについて整理する。	気づいたことをマップにまとめる
生成物				●マップ
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 概要説明 ● 役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気づいたことを白地図に書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観察で得られたものの共有。 ● 講師による意味づけ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災に関わる地域の施設・課題等をあげる。 (地図に落とし込むべき項目のヒントを出す) ● あがった項目を地図の該当するところに記入する。
ツール (特別に用意したもの)		<ul style="list-style-type: none"> ●カメラ ●白地図 	<ul style="list-style-type: none"> ● ホワイトボード等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 模造紙 ● マジック
場所	野外		屋内	

VI実践後

参加者へのアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「雨がたくさん降ったらどこが危険になるのかよくわかった。」「崖のことがわかった」など、地形に関する意識の向上が見られた。 	
成果として得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協力団体との連携がより強くなったこと。 ○ 新聞記事になったことにより各方面からの反応があり、シラスをテーマにした勉強会を別に関くほどで、地域における需要の高さを実感したこと。 ○ 成果物であり、無料で配布したマップが好評を得、県の広報誌にも掲載されるなど、広く市民の目に触れる機会を得たこと。 	
成果物	<p>(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。データがあればデータファイルを貼付して下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開催案内チラシ ○ 参加者名簿 ○ 成果物マップ ○ ワークショップマップ ○ 掲載記事(新聞3回、広報誌1回) 	
広報方法	広報した先	参加者募集時に流した先と同様
	広報の方法	前日のファックス
	取材にきたマスコミ	南日本新聞社、毎日新聞社
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	南日本新聞(ワークショップ内容・シラスについて) グラフかごしま
	成功点	ワークショップの様子が大きく掲載され、その後もシラスに関する特集が組まれるなど、広く市民の意識を喚起する結果となったこと
	失敗点	特になし。
全体の感想と反省・課題	<p>このプランでは鹿児島市の都市災害を視野に入れた甲突川の自然環境に関する情報を実際に見て、歩き、調べるワークショップを通じてまとめ、それをワークショップ参加者以外にも広報することで防災への意識を喚起することを目的として実施した。</p> <p>当初みて歩きワークショップの内容が対象児童に対して高度なのではと心配したが、思いのほか理解の早いことに驚かされ、手ごたえを感じた。</p> <p>ワークショップをもとに作成したマップでは、地域特性に関するより詳細な内容を盛り込み、今後も教材として使用できるものを目指すことを目指した。従来ファザードマップとは趣旨が異なるが、地形や地名の由来などを理解し、地域特性を知ることが究極の防災につながるという趣旨は広く受け入れられたと考える。その一例として、新聞報道を通じてワークショップのことを知った他校区の小学校から同様の勉強会をしたいとの申し入れがあり、本プランでの講師が招かれたことが挙げられる。</p> <p>今回のようなワークショップを継続的に行うことでより多くの人に関心を高めてもらうことが必要と考える。</p>	

今後の予定	来年度以降の進め方	シラスは南九州を覆っている特徴的な地形であり、これらに着目したワークショップを継続的に行っていきたい。
	是非実施してみたい取り組み	南九州を覆う、溶結凝灰岩の特性と防災、景観、まちづくりを考える催し。
自由記述	今回のチャレンジプランに参加させていただき、まことにありがとうございました。	

